



授業形態	自校	他校	巡回
	個別指導		グループ指導

実態:小学生

- ・会話や長文の音読で繰り返しや引き伸ばしが時々出る。
- ・会話や発表では、語頭音がつまって出てこないことがあり、手足を振ったり叩いたりというような随伴症状も加わる。

長期目標

- ・吃音について正しく理解し、自分の吃音と向き合えるようになる。
- ・発話の流暢性を高め、吃音の頻度を軽減する。

通級での指導・支援

吃音について正しく理解するために

- 会話練習を行う。
 - ・近況の出来事や言葉の調子について話し合うことにより、安心して話せる環境をつくり、発話意欲を高める。
- 吃音理解のための学習をする。
 - ・吃音についての絵本を読んだり、吃音に向き合うためのドキュメンタリー映像集を見たりして、吃音について正しく理解し、自分の吃音と向き合う。

吃音の頻度を軽減するために

- 発話練習を行う。
 - ・腹式呼吸の練習＝体全体の力を抜き、ゆっくりと口から息を出しきり、ゆっくりと鼻から息を吸うことによって、深い呼吸ができるようにする。自分で意識的に呼吸を整えることができるようにする。
 - ・軟起声を出す練習＝のどの力を抜き、軟起声(やわらかい声)で、長く安定した声出しができるように練習する。
 - ・単語を言う練習＝深く息を吸って、第一音をそとやわらかく声を出す。第一音から第二音への移行はややゆっくりと引き伸ばし気味で言うが、その後は通常で言う。単語全体を軟起声で言う。単語練習ができたら、句→文章と練習する。
- 音読練習＝軟起声でゆっくりと読む。
 - ・句読点までは、なるべく一息で続けて読む。やや引き伸ばし気味で読む。

通常の学級での指導・支援

- ・全教職員が吃音について正しく理解をする。
- ・学年当初に、本児の吃音についての説明をどのようにしていくか、本児や保護者、通級担当教員と話し合い、よりよい環境調整を行う。(2-5-1 参照)
- ・発表や音読、号令や話し合いなどの吃音が出やすい場面で、本児が困っていることがないか尋ね、吃音への配慮について、事前に話し合っておく。
- ・吃音には波があるので、言葉の調子に合わせて、適切な配慮を本児に確認する。
- ・学級全体で人の話をゆったり聞く態度を育て、安心して話せる環境づくりをする。

通級での変容

- * 呼吸のコントロールができるようになり、発表などの前に緊張を和らげることができた。
- * 軟起声でゆっくり読むことができ、長文でも、吃音が出にくくなった。
- * 吃音について正しく理解することにより、学級の友だちに自分の吃音について話すこと(自己開示)ができ、自己肯定感を高めることができた。

通常の学級での変容

- * 積極的に学習や学校行事に参加できるようになった。
- * 友だちとの関係が、より良好になった。



授業形態	自校	他校	巡回
	個別指導		グループ指導

実態:小学校 低学年

- ・立位や座位が保てず、机にもたれかかったりゴソゴソと動いたりする。
- ・ぶつかったり転んだりすることがよくある。
- ・追視や運筆など、運動全般に不器用さがある。

長期目標

- ・自分の体の部位に気付き、良い姿勢を保つことができる。
- ・指示されたとおりに動くことができる。

通級での指導・支援

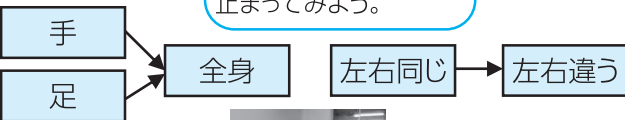
通常の学級での指導・支援



ケンケンパ
リズム良く、止まらずに跳んでみよう。「パ」のところでピタッと止まってみよう。



リラックス(漸進性筋弛緩法)
仰向けで全身に力を入れた後、一気に力を抜いてみよう。そのまま体を動かさずにじっと寝られるかな？

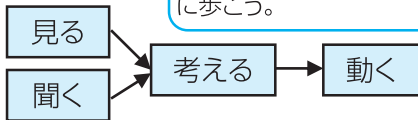


まねっこポーズ
手だけ、足だけ、手足同時に。左右ばらばらのポーズもまねてみよう。

くま歩き
左右ばらばらでも上手に動かして、手足で4足歩行してみよう。一本橋から落ちないようにくま歩きができるかな？



一本橋
落ちないように、一步一步ていねいに歩こう。



ぬいぐるみキャッチ
ぶら下げたぬいぐるみを揺らすから、自分の前にきたら両手でキャッチしよう。



色板ジャンプ
先生が言う色を聞いて、すぐにジャンプ移動しよう。何色か聞いて覚え、順番通りに思い出してジャンプで移動できるかな？



色板渡り
くま歩きで、赤の色板だけを通って渡りきろう。

通級での変容

- * 「動く」と「止まる」のメリハリが付けられるようになった。
- * リズム感が良くなった。
- * 手足がばらばらの複雑な動きができるようになってきた。
- * 見たり聞いたりしてから行動に移るまでの時間が短くなった。

通常の学級での変容

- * 授業の始めと終わりの挨拶で起立したときに、まっすぐ立てるようになった。
- * 友だちとぶつかることが少なくなった。
- * 机の上の物を落とすことが少なくなった。



感覚

2-3-2

うまく手先を使えるようになったよ

授業形態	自校	他校	巡回
	個別指導		グループ指導

実態:小学校 低学年

- ・文字をマス目に収めることが難しい。
- ・ひも結びなどの作業が難しく、自分ではできない。

長期目標

- ・指先での細かな操作ができる。
- ・マス目に収まる大きさの文字を書くことができる。

通級での指導・支援

指先での細かな操作ができるように

- 指先を動かす速さを調節する。
 - ・[スティッキー]
 - ・[パリナ]

棒を そっとぬいてね。



スティッキー



パリナ

- 道具を使って細かい作業をする。
 - ・ペーパークラフト
 - ・[クラッシュアイスゲーム]
 - ・[アイスクリームタワープラス]

ペンギンを落とさないように
流水を落とそう。



クラッシュアイスゲーム



アイスクリーム
タワープラス

マス目に収まる大きさの文字が書けるように

- 運筆練習をする。
 - ・点つなぎ
 - ・迷路
 - ・『漢字の基礎を育てるワークシート』
 - ・『けっしょほかん』

手本をよく見て、同じ模様にしよう。



けっしょほかん

通級での変容

- * 指先の感覚を確かめながら、棒や道具を扱うようになった。
- * 鉛筆をゆっくり動かすことができるようになった。

通常の学級での指導・支援

- ・「鉛筆の音を聞いて書く」ことを意識させる。
- ・指の体操をしてから書かせる。

通常の学級での変容

- * 慌てて書くことが減り、読みやすい文字を書くことができるようになった。
- * 細かいミスによる漢字の間違いが減った。
- * 丸くなりがちだった「折れ」をしっかりと角張って書くことができるようになった。